

令和4年10月19日
(2022年)

保護者のみなさまへ

吹田市立西山田中学校
校長 池田 広 恵

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、10月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

【国語 調査結果の概要】

平均正答率は全国値とほぼ同じという結果であった。

学習指導要領の領域ごとに見ても「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」が全国値をやや上回り、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」では、全国値とほぼ同じという結果であった。

また、出題の趣旨ごとにみると、「1三:自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」については、全国値を上回り、「3一:表現の技法について理解する」「1一:聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する」「3二:事象や行為、心情を表す語句について理解する」「3四:場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する」「2一:助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う」においては、全国値をやや上回ることができた。しかし、「2二②:文脈に即して漢字を正しく書く」においては全国値をやや下回っている。最後に問題形式で見ても「選択式」「短答式」において、全国値とほぼ同じである。

「記述式」においては、全国値を上回っている。

【国語科における成果と今後の改善点について】

今回の調査結果から、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての力において、概ね身につけていると考えられる。しかし、先述したように、漢字の書きに課題が見られたため、今後は授業の中で、文章を論理的に組み立て、表現する場を増やすだけでなく、漢字や文法など、知識に関する点でも反復練習を行っていきたい。その他にも、授業の中で、様々な人数編成のグループによる話し合いの時間を設け、コミュニケーション能力の向上を図っていく。

【数学 調査結果の概要】

平均正答率は全国平均値を上回るという結果であった。学習指導要領の領域ごとにみると、「数と式」「関数」「図形」「資料の活用」の全領域で全国平均値を上回っていた。

個別の問題で見ると、「1：自然数を素数の積で表すことができる」「6（2）：目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」については全国平均値を大きく上回っている。「2：簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」「3：反例の意味を理解している」「4：一次関数の変化の割合の意味を理解している」「7（1）：データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」「8（1）：与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」全国平均値を上回る。

しかし、「7（2）：箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」「8（2）：事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」は全国値とほぼ同じであるが、情報活用能力の読み取る力や日常の事象を数学的に一般化し活用する力に課題がある。

【数学科における成果と今後の改善点について】

授業の最初に行う復習プリントで各単元の基本問題の定着を行い、習熟度別少人数授業の特性を生かし計算問題の時間を多く設けるなど日々の活動を大切にしてきた。そのため、積み重ねてきた基礎的な学習内容が定着してきているものと思われる。普段の授業の中で、日常の事象と関連付けたり、ICTを活用し、平面図形や空間図形では視覚的に捉えたりできる取り組みを行ってきた。また、「自主学习ノート」や「けてぶれ学習」で、学習の仕方に力を入れてきた。そのため、意欲的に取り組み活用しようとする姿勢がみられてきた。今後は、「思考力、判断力、表現力等」をさらに向上させるため、積極的にグループ活動などを取り入れ、生徒が主体的に授業に参加できるようにしていく。本年度は、確かな学び推進校としての取り組みとして、言語活動を取り組んでいるため、数学の学習言語を活用しながら説明し、表現する力をさらに向上させていく。

今後も継続して、数学に苦手意識を持つ生徒には個別の指導を、より発展した課題に取り組みたい生徒には発展問題に挑戦させるなど、生徒の課題と到達目標に合わせた授業づくりを行っていく。また、個別に質問しやすい環境を作るため、テスト週間に行っている補習も継続していく。

【理科 調査結果の概要】

平均正答率は全国平均値とほぼ同じである。学習指導要領の分野ごとにみると、「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域物理的領域の分野では全国値とほぼ同じであり、「生命」を柱とする領域生物的領域の分野において全国平均値をやや上回っていた。評価の観点では思考・判断・表現において全国値を上回る。「2（3）：飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる」「5（1）：力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる」「8（1）：アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる」は全国値を上回る。「1（2）：モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる」「5（3）：考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる」「8（3）：未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる」「6（3）：地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈で

きるかどうかをみる」「7（2）：実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる」は全国値をやや上回っていた。しかし、「1（1）：日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる」ではやや下回り、「7（1）：液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる」では全国値を下回る結果となった。

【理科における成果と今後の改善点について】

ICT を活用したわかりやすい授業で知識を定着するとともに、実験では興味関心を高めつつ、結果・考察での表現指導、振り返りでの思考表現を大切にしてきた。調査結果では、生徒が今までに習得した知識を、日常生活や社会を関連づけ、科学的に探究することにやや課題があることが明らかになった。本校の取り組みとして行っている「めあて（課題）」の提示や「まとめ（振り返り）」に加えて、日常生活との関連付けを意識した探究活動や、理科学的な学習言語を使って説明する機会を充実させる。

2 生徒質問紙に関する調査結果の分析

【調査結果】（全国平均値との比較）

[自分自身のことについて]

- ・自分には、よいところがあると思うと答えた生徒が全国平均値をやや上回る。
- ・将来の夢や目標を持っていると答えた生徒が全国平均値とほぼ同じ。
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると答えた生徒が全国平均値を上回る。
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと答えた生徒が全国平均値とほぼ同じ。

[家庭生活・家庭学習について]

- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていると答えた生徒が全国平均値とほぼ同じ。
- ・学校の授業時間以外に、普段1時間以上読書をする答えた生徒は全国平均値とほぼ同じ。
- ・平日に、ゲームを2時間以上すると答えた生徒が全国平均値を下回る。
- ・朝食を毎朝食べていると答えた生徒が全国平均値とほぼ同じ。

[地域生活について]

- ・今住んでいる地域の行事に参加していると答えた生徒が全国平均値とほぼ同じ。

[学校生活・学習について]

- ・学校が楽しいと答えた生徒は全国平均値をやや上回る。
- ・1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをほぼ毎日使用したと答えた生徒が全国平均値の3倍以上で、大きく上回っている。
- ・1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと答えた生徒が全国平均値を大きく上回る。
- ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた生徒が全国平均値を大きく上回る。
- ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答えた生徒が全国平均値を上回る。

- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると答えた生徒が全国平均値とほぼ同じ。

3 今後の取り組み

【改善・向上のために（学校では）】

- ・毎日の授業や行事、学級活動、生徒会・委員会活動などによって、生徒の自尊感情や自己肯定感は着実に育ってきていると思われる。また、どんな小さなことでも生徒の頑張りを認め、声掛けをしていく姿勢をこれからも継続していく。
- ・将来について展望をもっており、キャリア学習等においても一定の成果が見られる。今後も引き続き、取り組みを進めていきたい。
- ・生徒会活動や委員会活動の活性化を目指し、生徒が主体となって生活改善や規範意識を高めていく取り組みを、これまで以上に推進する。
- ・読書の習慣が低下してきている傾向が見られる。研究推進校のテーマでもある言語力の育成のため、学校図書館の充実、小学校や家庭と連携して読書活動を推進する取り組みを検討し、言語的思考力の向上を図る。
- ・ICTの利用に関してはかなり大きく全国平均を上回っていた。それに伴い、発表や調べる力、資料を作成したり活用したりする力は高まっている。今後の社会の変化に対応していけるよう、ICTを利用した授業展開や主体的、対話的で深い学びを実践できる授業の研究を校内で行い、総合的な学力の向上に貢献できるよう、より一層取り組みを進める。

【改善・向上のために（家庭では）】

- ・引き続き学校と協同し、家庭内でも基本的な生活習慣の定着に留意し、子どもの健全な心身の成長を見守っていただく。
- ・家庭での過ごし方や時間の使い方について、子どもと話し合う機会を作り、家庭学習の計画や実践など家庭教育の充実を図っていただく。
- ・ゲームやスマートフォンの使用時間を家庭で管理していただき、その分、読書や家庭学習の時間にあてるように指導していただく。
- ・「早寝早起き朝ごはん」の習慣を徹底し、規則正しい生活を送るようにしていただく。
- ・地域の行事やボランティアなどに子どもと進んで参加し、地域貢献やボランティア精神の向上に努めていただく。
- ・社会の動きや情勢に関心をもてるように、時事ニュース等について話し合う機会を家族でもっていただく。

今回の生活習慣や学習習慣の結果を踏まえ、生徒の自立と幅広い学習の機会を作るために今後も継続して、ご協力をよろしくお願いいたします。